



IIPS

第8回中曽根康弘賞受賞者（2012年6月29日授賞・対外発表）

1 Robert D. Eldridge（ロバート・D・エルドリッジ）（優秀賞）

年齢：1968年1月23日生れ（44歳） 国籍：米国

所属：在沖縄米海兵隊 外交政策部次長

選考理由：日米関係史を専門に研究するとともに、現在の日米関係の重要性について論壇の場において積極的な発言を行ってきた。とりわけ、日米のホットな問題である沖縄について深い認識を示す業績があった。その知見をもって2009年に大学教員の職を辞して、在沖米海兵隊外交政策部次長として沖縄問題の解決と日米関係の緊密化のための努力を行い、東日本大震災後の米軍の「トモダチ作戦」の遂行にも大きく寄与してきた。

これらの提言や活動は、日米関係に動揺や相互不信が広がりつつある中で、両国間の安定や友好関係に資するものであり、国際関係における平和と安全の確保に多大な貢献を果たすものとして、大いに評価されるものである。

2 Zubaidullo Ubaidulloev（ズバイドウロ ウバイドウロエフ）（奨励賞）

年齢：1973年8月29日生れ（38歳） 国籍：タジキスタン

職業：筑波大学人文社会科学部 研究員

選考理由：日印関係の研究において、アジアの地政学的関係を踏まえ、インドや他の国における文献等を元に、第二次大戦後におけるジャワハルラール・ネルー印首相達が、勝者が敗者を裁く「東京裁判」史観に疑義を持ち、いかに親日的な対日姿勢を持つに至ったかを分析し、その姿勢がアジアの平和と安定をもたらしたと論じている。さらに、日印両国はともに民主主義という価値を共有し、今後とも両国及び価値を共有する他の国々との連携の強化がアジア地域に重要な影響を与えることにも触れている。これらの研究は、アジアの平和と安全の構築に重要な示唆を与えるものであり、今後、その研究が大いに期待されるものである。

3 田中 千草（たなか ちぐさ）（奨励賞）

年齢：1978年6月28日生れ（33歳） 国籍：日本

所属：カンボジア アナコット代表（小学校教諭）

選考理由：ポルポト政権下での大虐殺により教育システムが崩壊したカンボジアに青年海外協力隊の一員として現地に小学校教諭として赴任し、任期満了後においても、現地の人々からの熱望に応え、再び個人として無償で現地に赴任して支援活動を継続している。自ら子供たちに音楽や体育を教え、里親としての支援活動を進める一方で、校長補佐として学校運営の助言、教員の指導等に努め、現地の荒廃した教育システムの再構築に尽力してきた。このような地道で献身的な支援活動は、フィールドで活動する人を賞揚し、さらに今後の若い世代の活躍を期待するという中曽根康弘賞の趣旨にふさわしい人物である。